令和７年度　　園評価書

園番号　47　　園名　西久保こども園

Ⅰ　経営の重点に関わること

評価段階（A：よくできている　B：概ねできている、C：あまりできていない、D：できていない）

1　教育・保育目標	2　重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策（来年度の具体的な取組目標等）
心豊かな たくましい子	わくわくを つなげよう	色々なことに興味をもち、自分から積極的に関わり試行錯誤しながら繰り返し遊んでいる	「やってみたい」と興味を広げながら色々なことにチャレンジし、好きな遊びを見つけて楽しんだり、自分なりに考えたり工夫したりして遊ぶ姿が育ちつつある。今後も園児の姿や育ちに応じた環境構成や保育教諭の関わり方の工夫を継続していく。	A	A	・西久保こども園の園児達を毎年参観させてもらっているが、以前に比べて園児同士の関わりがよくみられるようになってきていると感じた。 遊びがダイナミックで園児同士が「〇〇してみよう」と声をかけあって生き生きと遊んでいると思う。先生たちも楽しそうに一緒に遊んでいるのがよく伝わってくる。	・クラス会議で園児の遊びから興味、関心を語り合い、何が育っているか、何を楽しんでいるか、課題は何かを共有し、育みたい園児の姿に具体的な願いを持つ ・リーダー会議の中で、園庭の可動遊具を遊びの中で有効的に活用する手立てを話し合い、実践していく ・保育教諭と園児が一緒に遊びながら、遊びだしの環境を作ったり、再構成したりしていく ・保育教諭は環境構成を毎朝10分行い、見直しや共有をすることで遊びの工夫や継続が生まれる環境づくりを進めていく ・保育教諭は先回りせず園児が自分で考えられる時間や選択する機会を保証し、安心して自己決定できる関わりを意識する
		友達の思いに気付き、自分の思いや感じたことを言葉や態度、仕草で表現できる	園児達は遊びや生活の中で、自分の思いや感じた事を自分なりに表現する姿が見られている。友達の思いに気付く姿は、学年によって差があるが、保育教諭の肯定的で適切な関わりの積み重ねが大切であり、友達の思いに気付くことができるよう、今後も園児達を育んでいきたい。	A	A		
		体を動かして遊ぶことを喜び、自分なりの目的を持ち、色々なことに挑戦しようとする	園児達は、体を動かして遊ぶことに喜びを感じ、少し難しいことでも「やってみよう」とチャレンジする子が増えてきている。中には興味が向かない子もいるので、安心して取り組める場を作ったり、チャレンジしている過程を褒めて自信を持たせたりしていきたい。	A	A		

Ⅱ　各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策（来年度の具体的な取組目標等）
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	園児の発達や個々の生活背景を考慮し、一人一人の状況に応じた柔軟で応答的な援助や環境を整えている	保護者と連携を取りながら、園児一人一人の発達段階や生活リズムに応じた援助を行い、職員間で園児の遊びや育ちについて情報共有と共通理解を図ることを意識し、安心して過ごせる環境作りを心掛けている。	A	A	・勤務体制が様々な職員がいると、打ち合わせで決まったことなどが全職員に周知されにくいという問題はどの職場でもあると思う。試行錯誤しながら手立てをしていると思う。小学校ではチャットで連絡をやり取りするなどの工夫をしている。 ・幼保小で避難訓練を行うにあたって「同じ合言葉」でやれる体制がとれるといいなと思う。 ・今年度は食育の日「出汁ってなんだろう？」に参加させてもらった。プロが作る出汁の飲み比べに園児達と一緒に参加させてもらい、園児達はいい経験をさせてもらっていると感じた。 これからも続けていってもらいたい。 ・あそび地図を通して、園児を主語にしながら、環境や関わりを職員みんなで考えていくツールにしていくのは良い考えだと思う。 あそび地図・・・園児がどこで・何を・どんな関係で遊んでいるか見える化したもの ・参観していた時に５歳児がメザシを焼いていた。２月に鬼が来るから、鬼が嫌いなメザシをサカマルで買ってきて、焼いていると言っていた。園児が主体的に考えて、行動している姿がおもしろいと思った。 ・来年度も幼保小で連携をとっていきたいと思う。小学校の教員もスタートカリキュラムに関心を持っている人もいる。幼保小架け橋のステージを上げられるといいと思う。 ・私立園は特色を出し、カリキュラムに沿って園生活を送っているところもある。公立園、私立園の園児の実態を知り、同じ小学校に入学する同じ地域の子ども達として繋がっていけたらいいのではないかと思う。	・新年度の丁寧な引継ぎを行い、保護者やクラス担任、フリー保育教諭との日々のコミュニケーションを通して、園児一人一人の姿や様子を伝え合う
	(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	一人一人の生活リズムを大切にしながら安定した気持ちで過ごせるよう工夫している	コドモン連絡帳やお知らせボードを活用したり、登校時に園児一人一人の体調や生活リズム、園生活中の様子や気持ちを保護者に伝えたりして丁寧にコミュニケーションを図っている。また、登降園時の伝達や延長保育時の引継ぎなど、職員間の連携を大切にし、共通理解のもと園児の安定を図っている。	A	A		・コドモン活用講座を年３回行い、全職員のスキルアップにつなげる ・保護者によるコドモンでの連絡事項は朝９時までには入力するよう協力してもらう
	(3)環境を通して行う教育及び保育	園児が自ら興味を持って周囲の環境に関わって遊び、主体的に園生活が送れるように配慮している	園児の興味、関心を捉えて環境構成することで主体的な生活、遊びが送れるよう配慮している。しかし園児の表れから、環境を再構成していくこと、遊びの仕掛けやきっかけ提供のタイミングが課題である。クラス会議で園児の姿を語り合い、連携をはかっていきたい。	B	B		・クラス会議を月１回行い、保育ウェブを活用して園児の姿や関心を共有する。リーダー会議も月１回行い、遊び地図を活用する。掲示し補足をすることで、全職員に話し合ったことを周知する
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	安全に園生活を送れるよう、園児と一緒に危険なことや場所を確認し、避難方法を考えている。また、保育教諭は適切な指示が出せるようにする	避難訓練、交通安全指導、不審者訓練を年間計画通り行い、職員間で反省や改善を共有している。減災教育での学びを職員間で共有し、園内の“ガタガタ・グラグラ”しそうな危険箇所を探し、どうやって避ければいいのか園児と一緒に考えながら訓練している。職員のヒヤリハット提出が少ないことが課題である。	B	B		・ヒヤリハットは月に１枚提出する。提出したら名簿にチェックする ・園児と一緒にガタグラしそうな危険箇所を探し、どうやって避ければいいのか考える(年３回)
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	健康に生活する習慣や態度が身につくよう援助している。また、食へ関心をもち、楽しい雰囲気の中食事できる環境になっている	日々の生活の中で手洗いうがいなどの生活習慣の大切さを伝え、身辺自立に向けて援助している。毎月の食育の日では、地域の方と連携して季節の食材や行事等について伝え、興味、関心を持てるようにしている。また、日々の食事が楽しくなるように、声掛けや雰囲気作りを大切にしている。	A	A		・職員間で同じ認識が持てるよう、食事のマナーについてマニュアルを作成する ・イラストや写真を用いて、手の洗い方、食事マナー、箸の持ち方について分かりやすく伝える
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	サポートプランに基づき、一人一人のの特性に応じた保育実践をしている	園児と信頼関係を築き、一人一人の特性に配慮した保育をしている。支援者会議（偶数月）サポート面談（年４回）を行い、個々の支援方法を会議などで周知しているが、パート職員にまで行き届かない部分があることが課題である。	B	B		・支援者会議の報告を書面で行い、確認したら各自サインする。重要なことは口頭で報告するとともに、他職員の意見も取り入れて実践に活かす ・サポートプラン作成の園内研修を年２回行う
5 組織運営	(1)組織体制の充実	各分掌が役割に責任をもち、組織として協力し合いながら運営をすすめている	分掌が中心となり協力して園の行事を進めている。分掌は役割の割り振り、進捗状況を把握すること、片付けまで責任をもつようにしたい。組織として円滑な運営ができるよう、リーダーが統率力を発揮していきたい。	B	B		・職員は年度初めに分掌の役割を理解する ・分掌の年間計画は、役割分担が分かるように計画を立て、分掌リーダーは協力依頼を早めに行い、負担の偏りがないように配慮していく
6 研　修	(1)研修体制の充実	遊び構想や研修テーマを基に園内研修で環境構成や援助の方法を学び合い、互恵性のある園内研修になるようにしている	研修部で協力し合いながら園内研修を進め、意見を出しやすい雰囲気の中で、保育教諭の援助や環境構成について考え合い、学び合うことができている。研修だよりを活用し、保育教諭全体での共通理解を図り、学びを実践へとつなげている。	A	A		・学級数公開保育を実施し、乳児クラスは動画を利用することで園児の負担にならないようにする ・園内研修は正規と会計年度職員のグループを作り、事前研、事後研まで可能な限り全職員が参加できるよう配慮する
7 教育・保育環境整備	(1)教育・保育環境の充実	園児の姿から興味や関心を理解し、わくわくする遊びにつながるような展開や構成を園児と一緒に考えている	保育教諭は園児の表れや興味、関心を捉え、思いを引き出しながら、遊びのきっかけ作りやしかけを考えている。学年によっては園児達と一緒に、試行錯誤しながら遊ぶことで、わくわくする気持ちが持続するようにしている。職員間で連携を取り、園児がやってみようとする思いを逃さないようにしていきたい。	B	A		・朝の環境整備でどのような環境を整えるのか、前日の昼打ち合わせで確認する ・研修テーマに沿ったニヤリハットを継続していく
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	園だより、クラスだより、連絡帳、お知らせボード等で保護者にわかりやすく園児の姿を配信し、子育ての喜びを共有し合える関係を築いている	クラスだよりは、写真を添付し園児の経験していることや育ちを捉えた内容、保育教諭の思いや願いを発信している。さらにスケッチブックを活用し遊びの経過や学びを分かりやすく伝えている。また行事毎に速報を作成し、送迎時にエピソードを伝え、保護者と園児の様子を共有している。	A	A		・クラスだよりは偶数月に配信し、スケッチブックは奇数月に掲示、配信し園児の経験していることや育ちを捉えた内容、遊びのその先の展開に向けた保育教諭の期待や願いを書いていき、保護者と共有する
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の園との連携の推進	小学校への訪問計画を調整し、関係づくりを深める。また、園だよりやHP、アプローチカリキュラム等で園の活動や園児の姿の相互理解を図る	幼保小架け橋の一環として「意見・情報交換会」を行った。自園の園児の姿や保育教諭が大切にしている経験や遊びの中で学んでいる姿を伝えることができた。	A	A		・意見情報交換会を年２回行い、自園の教育、保育を知ってもらう。また、独自のアプローチカリキュラムを作成し、小学校に提出する ・４・５月のニコニコタイムへ参加する
１０ 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	地域の子どもが健やかに育つ環境を提供している。また、地域の行事等に参加し、交流を大切にしている	おしゃべりサロン、子育てトーク、ふれあいサロン、秋葉山公園へ出前保育を行っている。中学生と合同避難訓練を行ったり、高校生、中学生の職場体験を受け入れたりしている。また、地域の商店の協力により食育の活動を行っている。	A	A		・地域資源や人材を取り入れた教育保育を年間計画で実施していく ・出前保育やおしゃべりサロンなどこども園の専門性を活かした子育て支援を進めていく